

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	人文社会科学と自然科学を連携するメタレベル知識ベースシステムの開発	研究代表者名	清木 康
-------	-----------------------------------	--------	------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ (×) 概ね予定どおり達成した
- ウ () 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
各種の連想などを用いたメタレベル知識ベースの開発により、異なる分野のデータベースの横断的検索を可能としたことにより、当初の研究目的は概ね達成した。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア () 十分に貢献できた
- イ (×) 概ね貢献できた
- ウ () 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
基本アイデアを実用化に近いレベルまで発展させ、異なる5専門領域でのデータベース検索の試行を可能とした事により、関連分野への貢献はあった。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ (×) 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
研究代表者による貢献により、学術創成研究としては意義があったが、貢献が明確ではない担当者が見受けられる。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ (×) 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
開発したシステムは未だ実験段階にあり、普及性、波及性は今後の展開による。なお、研究成果発表が世界的レベルにある論文誌に少ないのは残念である。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
×	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

異分野のデータベースの横断的検索を可能とするメタレベル知識ベースに関し、理論研究、ソフトウェア・モジュール開発を行い、試行的ではあるが、異なる5つの専門領域のデータベースに適用し、その有効性を確認した。このことより、研究成果は高く評価されるものである。また米国特許などを取得(出願)したことも評価される。

なお、開発システムが実利用による評価実験まで達し得なかったこと、世界的レベルの論文誌への研究発表が少ないこと、研究推進での貢献が少ないと思われる研究分担者が見られることは残念である。